



独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

2025 年

人間と動物の医療福祉を
豊かにするための研修会
開催の手引き

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会

J.N.C.A · Japan National Health Insurance Clinics and Hospitals Association

1. はじめに

本書は、地域で人間と動物の医療福祉を豊かにするための研修会を開催するための手順と考え方をまとめた手引書です。

2. 研修会の意義

ペットフード協会の報告で単身高齢者（60～70代）のペット飼育率は、犬で男性 3.6%・女性約5.2%、猫は男性 4.5%・女性約 8.7%と推計されています。

東京都長寿医療センターからは、犬の飼育を通じた運動習慣や社会とのつながりにより認知症の発症リスクが低下する、ペットの飼育は介護給付費を約半額に抑制すると報告されています。

ペットの位置付けは従来の単なる愛玩動物から、家族の一員あるいは伴侶としての位置付けへと変化しその存在の意味が変わってきています。

一方、飼育に基づく衛生課題や介護者の訪問困難、飼育を理由とした入院拒否、飼い主死亡時のペットの処遇など、動物飼育に関わる課題も同時に発生しています。しかし医療介護の支援者においてペットへの対応は十分議論されておらず、問題の発生時には心ある担当者が単独で対応しているのが現状です。

我々が行った調査においても医療介護の現場で問題として認識し困難を感じていることが明らかになりました。単身高齢者が増加する我が国においてこの問題は拡大傾向にあると考えられます。

本事業の最終的な目的は、ペットを飼育する高齢者等の健康やQOLの向上です。ペットがもたらす様々な効果を楽しむためにも、動物飼育に起因する課題を地域ぐるみで解決することを目指しています。

3. 体制整備の実施

まず運営体制を整えることが重要です。2024年度の国保診療施設と小規模自治体の地域包括支援センターを対象とした調査では、ペットに関する諸問題について多くの施設で相談先が不明であったことから、動物愛護関係者との連絡調整体制の構築に課題がある可能性が考えられます。

下の図は連携体制の発展段階についての模式図です。最初は Zero: 模索している状況だと想定し本研修会を通じて A→B→C→D と発展できることを期待しています。



◎動物愛護関係者との連携における発展段階
Zero: 相談先不明で連携を模索している段階
A: 相互に知り合う段階
B: 相互理解が進む段階
(相互に大事にしているところが理解される)
C: 実際に協働できる段階
D: 相互に相談しあうルートが確立する段階

●運営体制整備のポイント:

- ・Zero の段階には、ペット問題を福祉課題と認識されていない段階を含みます
- ・中核となるメンバーで共通認識を持つことから始めましょう
- ・多くの地域が Zero の段階で A を目指している状況と想定しています
- ・はじめに、地域包括支援センター、市町村社会福祉協議会に声掛けしてみましょう
- ・地域の現状を把握する中で動物愛護ボランティアや NPO、獣医師や獣医師会、保健所へ声掛けでキーパーソンが明らかになる場合があります。
- ・保健所や県・市町村行政では担当課が不明確場合があります
- ・病院としてペットの諸問題による医療提供の課題があり動物愛護推進委員等と一緒にこの問題に取り組みたい旨、保健所を介して紹介してもらう手法も想定されます
- ・地域によっては動物愛護推進委員や動物愛護推進協議会が県によって設置されている場合があります。

4. 研修プログラムについて

運営体制が整えば地域の状況に応じて研修会の内容を検討します。標準的な研修プログラムと教材を用意しておりますので以下に説明します。なお標準的なプログラムを地域の実情に合わせて内容を改変してご使用いただくことも問題ありません。

なお、標準的な研修プログラムは基本的に下記の流れで進行します。

○研修時間:2時間

- ①導入
- ②アイスブレイキング(自己紹介)
- ③インプット:各種教材(各種プログラムごとに標準教材が用意されています。)
- ④グループワーク:解決策発散
- ⑤まとめ
- ⑥振り返りと意見の共有
- ⑦クロージング

・単独開催プログラム(3種類)

参加者は都度入れ替わりを想定したプログラムです。内容の異なる3種類のプログラムの中から地域の実情に合わせて選択してください。いずれのプログラムも【問題の共有と活動のきっかけ作り】を目標としています。

プログラム名:1回目①、1回目②、1回目③

教材:1回目①:【2】昨年度の調査結果概要(5分)、【3】飼育のメリットと課題(10分)

1回目②:【2】昨年度の調査結果概要(5分)、地域の取り組み(10分)※

※地域のボランティアや行政等の活動や制度などの紹介(教材の用意はなく各実施地域で作成してください)

1回目③:【2】昨年度の調査結果概要(5分)、【4】医療福祉の現状(10分)、【5】動物福祉の現状(10分)

・シリーズ開催プログラム

先述の単独開催プログラムのいずれかを1回目として3回シリーズで開催することを想定したプログラムです。1回目は【問題の共有と活動のきっかけ作り】、2回目は【顔の見える関係づくり】、3回目【共同で活動してみよう】というテーマを設定しています。

プログラム名：1回目①から③のいずれか、2回目、3回目

教材：1回目：前項参照

2回目：【6】不妊去勢のあれこれ（10分）、

【7】動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者（10分）

3回目：【8】事例提示（5分）

5. 教材一覧

教材番号	教材名	概要・意図
1	趣旨説明	開催の意義と目的を解説
2	昨年度の調査結果概要(5分)	昨年の研究概要について解説して本年度の研修の位置づけを強化します。多くの小規模自治体では対応に苦慮することがあり、公的な制度も確立しておらず心ある担当者が問題の対応に孤軍奮闘して何とかしている実態がある。
3	飼育のメリットと課題(10分)	東京都健康長寿医療センターの研究結果から犬の飼育者で認知症発症リスクが40%低いことやペット飼育者は介護費が半分に抑制、さらに昨年のヒアリングからのエピソードで生活の張り合いになったり、退院に向けて意欲になったりする効果を示す。一方でペットを理由とした介入拒否や急な入院や入所でペットの処遇が問題になっている。
4	医療福祉の現状(10分)	ペットによる介入拒否や急な入院入所時の処遇の問題。 公的ルールで運営されている介護福祉の現場では本人のケアしかできない現状
5	動物福祉の現状(10分)	財政的裏付けのないボランティアでできることは限られる。 善意で成り立っており予防が基本。飼い主へのケアがなければ、動物側の取り組みでは限界がある。
6	不妊去勢のあれこれ(10分)	殺処分ゼロの理念のもと譲渡会やTNRなどの取り組み紹介。猫の繁殖力の高さや不妊去勢による頭数コントロールの大切さについて
7	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)	動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者の増加を背景に、最初は適切に飼育できているが加齢とともに論理的思考力、判断や身体能力の低下に伴う不適切飼育になる可能性がある。 また孤独・孤立など社会的な背景や、精神疾患や障害の存在も踏まえた対応も必要となる可能性について解説。
8	事例提示(5分)	困難事例提示 (医療福祉関係者、動物愛護推進委員、獣医師会、ボランティアの役割)
9	自己紹介と各種問いスライド	自己紹介のアイデアスライドと各プログラムの問いスライド
10	全体統合版教材	全体を把握できるよう教材をまとめたものです。 (内容が重複するため2_昨年度の調査結果概要を除いています)

6. 最後に

本書では、研修会開催に向けてプログラムの内容を中心に解説しました。研修会開催に向けて地域の状況によっては、さらに必要な準備は増えると思われます。体制整備が大変重要であると言えます。

これを機に地域資源の把握と関係者の顔の見える関係作りを通じて、本課題について同じテーブルで検討できる地域づくりに役立てていただければ幸いです。

研修プログラム:1回目①

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

<狙い/成果> 問題の共有と活動のきっかけ作り

<対象者/人数>

医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度

<時間/場所>

13時30分～15時30分まで(2時間)

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時35分 (5分間)	導入: 趣旨を理解する	・【1】趣旨説明 (主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	表面のみ記入 裏面は研修会后記入と案内
3	13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング: 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント:隣の名前や気になる事を聞いて紹介) すでに顔見知りの場合短縮可	【標準資料提示】 プロジェクター
4	13時50分～14時05分 (15分間)	インプット:体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域で起きていること> 【2】昨年度の調査結果概要(5分) 【3】飼育のメリットと課題(10分)	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料
5	14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<安心してペットと過ごすには何が必要?> ・困った状態を見かけたことがありますか? ・通常時から関わりながら出来ることは?	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン
6	14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン
7	15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク
8	15時20分～15時30分 (10分)	クロージング	・閉会挨拶 ・アンケート記入	

注:G=グループ 【】=教材番号

研修プログラム:1回目②

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

<狙い/成果> 問題の共有と活動のきっかけ作り

<対象者/人数>

医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度

<時間/場所>

13時30分～15時30分まで(2時間)

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時35分 (5分間)	導入: 趣旨を理解する	【1】趣旨説明(主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	表面のみ記入 裏面は研修会后記入と案内
3	13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング: 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント:隣の名前や気になる事を聞いて紹介)	【標準資料提示】 プロジェクター
4	13時50分～14時05分 (15分間)	インプット:体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域で起きていること> 【2】昨年度の調査結果概要(5分) ○地域の取り組み(10分)	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料
5	14時05分～14時55分 (50分)	解決策発散	<安心してペットと過ごすには何が必要?> ・困った状態を見かけたらどうしますか? ・通常時から関わりながら出来ることは?。	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン
6	14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン
7	15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク
8	15時20分～15時30分 (10分)	クロージング	・閉会挨拶 ・アンケート記入	

注:G=グループ

研修プログラム:1回目③

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

<狙い/成果> 問題の共有と活動のきっかけ作り

<対象者/人数>

医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度

<時間/場所>

13時30分～15時30分まで(2時間)

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時35分 (5分間)	導入: 趣旨を理解する	【1】趣旨説明(主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	【標準資料提示】 プロジェクター
3	13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング: 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント:隣の名前や気になる事を聞いて紹介) すでに顔見知りの場合短縮可	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料
4	13時50分～14時15分 (25分間)	インプット:体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域で起きていること> 【2】昨年度の調査結果概要(5分) 【4】医療福祉の現状(10分) 【5】動物福祉の現状(10分)	ファンリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン
5	14時15分～14時55分 (40分)	解決策発散	<安心してペットと過ごすには何が必要?> ・困った状態を見かけたことがありますか? ・通常時から関わりながら出来ることは?	1Gのみ マイク
6	14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン
7	15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク

研修プログラム:2回目

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

<狙い/成果> 顔の見える関係づくり

<対象者/人数>

医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度

<時間/場所>

13時30分～15時30分まで(2時間)

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時35分 (5分間)	導入: 趣旨を理解する	【1】趣旨説明(主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	【標準資料提示】 プロジェクター
3	13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング: 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント:隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介)	【標準資料提示】 プロジェクター
4	13時50分～14時15分 (25分間)	インプット:体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<前回の振り返りとこれから> 前回の振り返り(5分) 【6】不妊去勢のあれこれ(10分) 【7】動物の寿命延伸と一人暮らし高齢者(10分)	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:スライド資料
5	14時15分～14時55分 (40分)	解決策発散	<スライドを見てどう思ったかを話し合う。> ・不適切飼育の背景は? ・普段できること・緊急時できること。	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン
6	14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン
7	15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク

研修プログラム:3回目

タイトル：人間と動物の医療福祉を豊かにするために

<狙い/成果> 共同で活動してみよう

<対象者/人数>

医療福祉専門職・行政・動物福祉関係者/20人程度

<時間/場所>

13時30分～15時30分まで(2時間)

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時35分 (5分間)	導入: 趣旨を理解する	・趣旨説明(主催者挨拶・趣旨説明含め5分)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時35分～13時40分 (5分間)	アンケート記入	・研修会前アンケート記入	【標準資料提示】 プロジェクター
3	13時40分～13時50分 (10分間)	アイスブレイキング: 話しやすい雰囲気を作る	・グループ自己紹介 (ヒント:隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介)	【標準資料提示】 プロジェクター
4	13時50分～14時00分 (10分間)	インプット:体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<地域社会との接点を維持することが再発防止に効果的> 前回の振り返り(5分) 【8】事例提示(5分)	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料:使える資源資料
5	14時00分～14時55分 (55分)	解決策発散	<事例検討> ・この方の背景や思いについて ・行政 動物愛護関係者 医療福祉関係者、住民、家族それぞれの役割	ファシリテーター:実行委員 最初の3分各自書く 付箋・模造紙・ペン
6	14時55分～15時05分 (10分)	まとめ	・意見集約	付箋・模造紙・ペン
7	15時5分～15時20分 (15分)	振り返り 意見の共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク
8	15時20分～15時30分 (10分)	クロージング	・閉会挨拶 ・アンケート記入	

注:G=グループ